

第33回「食」と「漁」を考える地域シンポジウム

神の魚・ハタハタと伝統の食文化

東京から地域漁業への応援メッセージ

共催：(一財)東京水産振興会・(一社)漁業情報サービスセンター・東京ガス「食」情報センター

後援：(予定)秋田県・秋田県ハタハタ加工産業振興協議会・秋田県漁業協同組合・日本の伝統食を考える会

と き： 2015年11月27日(金) 13:00~17:30

と ころ： スタジオ・プラスジー・ギンザ5階

(地下鉄銀座駅から徒歩5分、JR新橋駅から徒歩6分)

(参加申込を受け付けた際に、会場地図をご案内いたします。)

参 加 費：無料

事前申込制：先着70名(事前に参加申込が必要です。当日参加はご遠慮ください。)

コーディネーター：二平 章(漁業情報サービスセンター・茨城大学人文学部)

プログラム

主催者挨拶：	西本真一郎(東京水産振興会振興部長)	13:00~13:15
	金森俊和(秋田県ハタハタ流通促進協議会会長・金森水産代表取締役)	
来賓挨拶：	牧野一彦(秋田県東京事務所長)	
趣旨説明：	「ハタハタと秋田美人」(趣旨説明に変えて)	13:15~13:30
	コーディネーター	

《第1部》シンポ：ハタハタの食文化の魅力

■特別報告■

日本の伝統食と地域文化を守ることの大切さ	13:30~14:00
浅岡元子(日本の伝統食を考える会事務局長)	
神の魚ハタハタの魅力と食文化	14:00~14:30
杉山秀樹(秋田県立大学客員教授)	

■リレートーク■

秋田のハタハタ漁と資源	14:30~14:45
甲本亮太(秋田県水産振興センター主任研究員)	
ハタハタ寿司の地域差とそのルーツ	14:45~15:00
塚本研一(秋田県総合食品研究センター上席研究員)	
ハタハタと地域づくり：由利本荘にかほ・わくわくプロジェクト	15:00~15:15
三浦悦郎(プロジェクト代表・三浦米太郎商店代表取締役)	
秋田のハタハタ郷土料理	15:15~15:30
渡部恵美(秋田市中央卸売市場「旬の魚菜料理教室」講師・料理研究家)	

■パネル討論■ ハタハタ漁と食文化の継承をめざして 15:30~16:10

司 会：二平 章

パネラー：浅岡元子(日本の伝統食を考える会事務局長)

杉山秀樹(秋田県立大学客員教授)

甲本亮太(秋田県水産振興センター主任研究員)

塚本研一(秋田県総合食品研究センター上席研究員)

三浦悦郎(三浦米太郎商店代表取締役)

渡部恵美(秋田郷土料理研究家)

挨拶：工藤裕子（東京ガス「食」情報センター所長）

料理：ハタハタのしょっつる鍋

ハタハタの塩焼き・田楽

はたはた寿司（県北・県中・県南の味比べ）

秋田の地酒（銘柄を紹介）

●開催趣旨

秋田で有名なのは秋田美人と秋田杉そしてハタハタである。美人と杉の木は健在でもハタハタは一時期、幻の魚になりかけた。秋田の漁民たちは3年間、生活が苦しいなか漁獲をやめて復活をまった。はたして漁民の願いが通じたのか神の魚ハタハタはよみがえり浜には再び活気もどってきた。ハタハタは海が荒れ、雪が舞いだす12月初旬、雷鳴とともに一気に岸に押し寄せる。産卵のためである。夜を徹しての操業で浜はハタハタの水揚げでにぎわうが、秋田でも昔ほどの消費需要は弱まり、最近魚価安の傾向が続く。また、ハタハタ漁にも徐々に高齢化の波が押し寄せる。もともとは日本海の食文化であったハタハタではあるが、太平洋側ではハタハタを知らない人間も大勢いる。食べてみれば実に美味しい魚である。ハタハタの文化を知り、料理にふれることでハタハタの需要を喚起したい。

古くから受け継がれてきた日本の伝統食のすばらしさを、もう一度、再認識し、地域に残る郷土食、伝統食の魅力を再発見しながら、地域漁業再生のための応援メッセージをぜひ東京からとどけたい。

■第33回地域シンポ 参加申し込み■

参加希望者名、連絡先等、必要事項をご記入の上、下記宛先までFAX、もしくはお電話、メールにてお申し込みください。参加申込は、11月20日（金）までお願いいたします。

※シンポジウム、交流会への参加について、必ず欄内に○×をお願いします。なお、参加申込は先着順にて受付いたします。シンポジウムに関して、会場へのお問い合わせはご遠慮下さい。

○一般財団法人 東京水産振興会 振興部（松田）宛
 FAX：03 - 3533 - 8116 電話：03 - 3533 - 8111
 E-mail：tkyfish@blue.ocn.ne.jp

氏名		所属先 部署名	シンポ ジウム	交流会
①				
②				
③				
代表者 連絡先	(ご住所) 〒			
	(お電話番号)			
	(FAX番号)			
	(メールアドレス)			
@				

※ご連絡する際に必要となりますので、電話番号とE-mailアドレスを必ずご記入ください。今後、シンポジウムやイベント等のご連絡に使用させていただきます。 ※定員に達した場合、期限よりも早く受付を終了する場合がございます。